

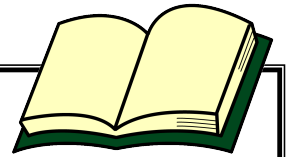
令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果から

校長 吉田 美佳

秋になり一日の寒暖差が激しく体調を壊しがちではありますが、広くなった校庭で子どもたちは元気に遊んでいます。10月・11月ほどの学年も校外学習が予定されており、今年度は5年生の宿泊移動教室も実施できました。集団での行動や、教室での学習だけではできない体験を通した多様で豊かな学びは、思い出だけでなく、ひとり一人の力になる大切な学びとなるはずです。校外学習の実施にあたり、保護者の皆さまの協力をいただきありがとうございました。

さて、4月に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が届き、6年生には11月上旬に個人結果票を配付します。学力調査(国語・算数・理科)と学習状況調査(生活の様子)について、全国や県の結果と比較し、本校の傾向と今後の対策についてまとめましたので、お知らせします。

学力調査



国語 : 正答率については、全国平均・神奈川県平均より高い結果になりました。

○「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「我が国の言語文化に関する事項」についての正答率が高く、「文章を読む力」がついています。

▼「書く」問題で、無回答率(諦めて空白にしてしまう割合)が多い傾向にありました。

☆引き続き、言語活動の充実を図るとともに、ICTを活用しながら感想や意見を伝え合い自分の文章の良いところを見つけたり、文章全体の構成や書き表し方に着目して文章を整えたりする学習を充実していきます。

算数 : 正答率については、16問中13問で神奈川県平均と全国平均を上回っていました。

○「百分率」や「表の意味の理解」、「図形を構成する要素」の正答率が高く、これは、数量関係だけでなく、客観的に分析する力がついていると考えます。

▼「数量が変わっても割合は変わらないことの意味」や、「図形の意味や性質を基に図形の構成の仕方について考察し記述」「比例の関係をを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述」する問題において課題がありました。

☆既習事項をもとに課題解決をする活動や、論理的に考察し、分かりやすく説明(文章表現)する力をつけるため、単に答えを求めるだけではなく、「根拠を見つける」「考えや予想を書く」ことを定着させていきます。

理科 : 4領域全てにおける正答率が、神奈川県平均・全国平均を上回っていました。

○「天気と気温の変化」や「昆虫の体のつくりや特徴」に関する問題で正答率が高く、学習が定着しています。

▼「エネルギー」や「粒子」を柱とする領域の問題に課題が見えました。

☆光(日光)の性質についての理解や、自然現象や実験結果から得られた情報を考察する力(分析・解釈し、自分の考えを述べる力)をつける必要があります。授業では、実験や観察の結果を確認するだけでなく、情報を適切な視点をもって分析・解釈しながら答えを導き出す過程を大切にしていきます。



学習状況調査

学習及び学校生活・家庭学習・生活習慣

◇「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時刻に起きている」と9割以上の児童が回答しており、基本的な生活習慣が整っています。また、学校外での学習時間を十分とっている家庭が多いことがわかりました。

◇ICT機器を所持している児童が多く、使い方について家の人と約束をしたことをきちんと守っているものの、ゲームやSNS、動画視聴などをする時間が長く、学習に利用する時間は短いことがわかりました。

◇8割以上が「読書が好き」と回答しましたが、一方で新聞を読んでいる児童は少ないという結果でした。

☆学校で使用しているChromebookは、今後一層家庭での学習に活用していくことを進めていきます。情報機器の使い方については、ご家庭と協力して児童の心と身体の健康に配慮をしていく必要があると考えます。

社会に対する興味・関心及び規範意識

◇「自分にはよいところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」と多くの児童が回答していることから、様々なことに進んで取り組むことで自己肯定感を高めようとしている様子が伺えます。

◇「人の役に立つ人間になりたいと思う」「人が困っているときは、進んで助けている」との回答率が高く、人に対して助けたい、役に立ちたいと思っている児童が多いことがわかりました。

☆「社会への関心」について低い傾向が見られました。今後は、感染症対策を講じながらゲストティーチャーや地域教育力の活用をより充実させたいと考えています。